流動性カバレッジ比率（LCR）の所要水準の遵守状況に関する四半期報告書

銀行名： Bank JTrust Indonesia, Tbk
報告対象期間： 2026年第3四半期（7月～9月）

（単位：百万ルピア）

No	項目	報告基準日：2026年9月30日		報告基準日：2026年6月30日	
		債務・コミットメントの残高および契約上の債権額	ヘアカット（評価額控除）適用後の適格流動資産（HQLA）の金額、債務・コミットメント残高に資金流出率を乗じた金額、または契約上の債権額に資金流入率を乗じた金額	債務・コミットメントの残高および契約上の債権額	ヘアカット（評価額控除）適用後の適格流動資産（HQLA）の金額、債務・コミットメント残高に資金流出率を乗じた金額、または契約上の債権額に資金流入率を乗じた金額
1	LCRの算定に使用したデータポイント数		59日間		59日間
適格流動資産（HQLA）					
2	適格流動資産（HQLA）合計		6,594,507		7,036,370
資金流出額（Cash Outflow）					
3	個人顧客からの預金および小規模・マイクロ事業者からの資金調達（内訳は以下のとおり）				
	a. 安定預金および安定資金調達	877,840	43,892	917,935	45,897
	b. 非安定預金および非安定資金調達	4,208,544	420,854	4,465,757	446,576
4	法人顧客からの資金調達（内訳は以下のとおり）				
	a. 運営用預金（オペレーショナル預金）	1,996,091	99,805	2,955,021	147,751
	b. 非オペレーショナル預金およびその他の非オペレーショナル負債	11,907,249	4,762,899	11,366,282	4,546,513
	c. 銀行が発行した無担保債務証券	-	-	-	-
5	有担保調達		-		-
6	その他の資金流出（追加所要額。内訳は以下のとおり）				
	a. デリバティブ取引に伴う資金流出	686,937	686,937	802,735	802,735
	b. 流動性所要額の増加に伴う資金流出	-	-	-	-
	c. 調達資金の喪失に伴う資金流出	-	-	-	-
	d.コミットメントラインおよび流動性ファシリティの引出しに伴う資金流出	-	-	-	-
	e.与信等の資金供与に関連するその他の契約上の債務に伴う資金流出	-	-	-	-
7	その他の偶発的な資金調達債務に伴う資金流出	-	-	-	-
8	その他の契約上の資金流出	722,844	722,844	364,890	364,890
	資金流出額合計（Total Cash Outflows）		6,651,251		6,354,361
資金流入額（Cash Inflow）					
9	有担保貸付		-		-
10	正常に履行されている取引先向けエクスポージャーからの資金流入		503,332		323,898
11	その他の資金流入		1,137,456		1,232,144
	資金流入額合計（Total Cash Inflows）	-	1,640,788	-	1,556,042
			調整後合計額		**調整後合計額**
	適格流動資産（HQLA）合計		6,594,507		7,036,370
	純資金流出額合計（Net Cash Outflows）		5,010,463		4,798,319
	流動性カバレッジ比率（LCR）（%）		**131.61%**		**146.64%**

個別ベースの分析

Jトラスト銀行インドネシアの2026年第3四半期（2026年7月～9月）における流動性カバレッジ比率（LCR）の平均値は131.61%となり、監督当局が定める最低所要水準である100%を上回りました。これは、レベル1適格流動資産（HQLA）の構成が、資金流出が発生した場合の流動性需要に適切に対応できる水準にあることを示しています。

2026年第3四半期のLCR算定結果およびその数値に関する定性的情報は、以下のとおりです。

1 LCRの水準および推移に影響を与える主な要因

a. 2026年第3四半期（2026年7月～9月）の平均LCRは131.61%となり、2026年第2四半期（2026年4月～6月）の146.64%と比較して、15.03パーセントポイント低下しました。

b. LCRの低下は、適格流動資産（HQLA）の平均残高が4,418億6,000万ルピア（6.28%）減少したことに加え、平均純資金流出額が2,121億4,400万ルピア（4.42%）増加したことによるものです。

c. 全体として、LCRの算定において、所定のLCR開示様式に含まれていない資金流入・資金流出項目のうち、当行の流動性リスク・プロファイルに重要な影響を及ぼす、または関連性を有する項目はありません。

2 適格流動資産（HQLA）の構成

レベル1適格流動資産（HQLA）は、現金、インドネシア中央銀行への預け金、およびインドネシア政府が発行する国債等の有価証券で構成され、HQLA全体に占める平均構成比率は98.36%となっています。一方、レベル2適格流動資産（HQLA）の平均構成比率は、レベル2Aが0.00%、レベル2Bが1.64%となっています。レベル2Bの資産は、HQLAの適格要件を満たす社債で構成されています。

3 資金調達源の集中状況

Jトラスト銀行インドネシアは、現時点において十分な資金調達基盤を確保しており、その資金調達は主に法人顧客からの非オペレーショナル資金調達によって構成されています。当行は、商業銀行に適用されるLCR規制上の基準に従い、特に安定資金調達および運営用（オペレーショナル）資金調達の比率を高めることにより、資金調達構成の改善に継続的に取り組んでいます。また、流動性管理に関して、当行は適切な流動性管理方針および標準業務手順を整備しており、これらを流動性管理に関係する全部署に周知しています。

4 デリバティブ・エクスポージャーおよび追加担保差入請求（マージン・コール）の発生可能性

a. 全体として、デリバティブ・エクスポージャーがLCRの経時的な変動に及ぼす影響は限定的です。これは、当行が現在取り扱っているデリバティブ取引が、主に標準的な商品構造のプレーン・バニラ型デリバティブに限定されているためです。

b. 現時点において、流動性所要額の増加は概ね発生していません。ただし、当行は、信用格付の低下や特定の取引に係る原資産の価値下落による影響を検証し、追加担保差入請求（マージン・コール）が発生する可能性について継続的にモニタリングしています。

5 LCRにおける通貨間のミスマッチ

当行は、米ドル（USD）建ての重要な外貨エクスポージャーを有しています。一方、外貨建ての加重平均資金流出額は、インドネシアルピア（IDR）建ての資金流出額と比較して相対的に小さい水準にあります。当行は、外貨建て債務の流動性管理において、負債の満期構成、将来キャッシュフローの予測、および市場における資金調達手段へのアクセス可能性と市場の厚みを考慮した流動性管理戦略を実施しています。

6 流動性管理

Jトラスト銀行インドネシアは、当行の事業特性に適合し、現行の監督当局の規制にも準拠した流動性リスク管理体制を適切に整備・運用しています。具体的には、流動性リスク管理組織の整備、内部流動性報告、流動性リスク管理戦略の情報共有、および流動性危機に備えた緊急時対応計画の策定等を実施しています。主な取組みは以下のとおりです。

a. 流動性リスク管理の一環として、当行は、適格流動資産（HQLA）の管理を、当行の流動性管理を担当し、かつHQLAを現金化する権限を有する専門部署が行う体制を確保しています。また、HQLAの運用上の要件を満たすため、レベル1およびレベル2Aの適格流動資産については、中央銀行からの日中流動性供給を受ける際の適格担保要件への該当性を考慮して分類しています。この際、中央銀行に対する所要準備金の充足に支障を来さないことを前提としています。さらに、レベル2適格流動資産については、金融資産の種類、発行体および通貨の種類に基づく分散要件を設けています。

Jトラスト銀行インドネシアは、適格流動資産（HQLA）について、資産の基礎的な適格要件、市場特性、運用上の要件および分散要件を継続的に満たしていることを確認するため、定期的なレビューを実施しています。また、LCRの各算定項目に係る計算処理を中心に、情報システムの十分性についても定期的に検証しています。

b. LCRの管理を中心とする流動性リスク管理戦略については、コミサリス会（Dewan Komisaris）、取締役会（Direksi）、流動性リスク管理組織および関連部署に対し、定期的に情報共有を行っています。

* 本流動性カバレッジ比率（Liquidity Coverage Ratio：LCR）の所要水準に関する算定結果の定量的・定性的分析は、インドネシア金融サービス庁（OJK）の通達 SEOJK No.29/SEOJK.03/2025「従来型商業銀行の報告書の透明性および公表」に定めるガイドラインに基づき作成されています。